



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3812号 2017.8.2 発行

<金口木舌>「共生社会へのゲート」

琉球新報 2017年8月2日

那覇市の与儀公園に鎮座する蒸気機関車の後方に2基の石碑からなる彫刻作品が立っている。市民の憩いの場、時には政治集会の場となる公園の中で石碑は静かに存在感を放つ▼2基の石碑の間隔は1メートル50センチほど。なだらかな勾配のある地面には黄色の点字ブロックが埋め込まれている。表面には「障害者福祉都市」の文字。明確なメッセージが伝わってくる▼裏面には「那覇市は障害者が人間としての尊厳を保障され完全かつ平等に社会参加できる福祉都市の建設を目指します」と刻まれている。経年のため石碑の表面はくすんでいるが、この決意は未来へと向かっている▼1981年4月、那覇市は障害者福祉都市の指定を受け、1年後に指定記念の石碑が立った。作者で彫刻家の能勢孝二郎さんは「ゲートをイメージして作った」と話す。2基の石碑は門柱と言えよう▼ゲートは狭い。一度に大人数は通れず、少人数向きだ。されど目の不自由な人や車いす利用者など、さまざまな人がゲートをくぐっていくはずだ。そして健常者と障がい者が手を携えて歩む。そのことを学ぶゲートだ▼相模原市の障がい者施設を襲った惨劇から1年が過ぎた。事件の闇は深く、衝撃はいまだ拭えない。しかし、健常者と障がい者が共に生きる理想を手放すまい。ゲートの向こうにある望ましい共生社会への歩みを続けたい。

マイナンバーカード交付率、都城市が全市1位

読売新聞 2017年08月01日

都城市が使っているタブレット端末



宮崎県都城市のマイナンバーカードの交付率（人口に対する交付枚数の割合）は19・2%（5月15日現在）で、全国の790市の中で最も高いことが総務省のまとめで分かった。2位の奈良県橿原市（16・7%）に2・5ポイント差を付けている。市は、カードに貼る顔写真を市職員が撮影するなど、手軽に申請できる仕組みを整えたことが奏功したとみている。

国民に12桁の番号を割り振るマイナンバー制度は2015年10月に始まり、16年1月からカードを交付している。カードには顔写真と氏名、住所などの個人情報に記載され、個人識別のための集積回路（IC）チップが付いている。

交付を受けるには市町村を通じて国への申請が必要。申請書に顔写真を貼って郵送したり、インターネットから申し込んだりする。

しかし、交付のために顔写真を撮影することが手間なうえ、パソコン操作が苦手な人もいることなどから、交付率は低迷。全国平均は9%にとどまっている。

都城市では、交付希望者が市役所を訪れると、7階の特設会場に案内する。ここで市職員がタブレット端末で顔写真を撮り、パソコンを操作して申請を手伝う。「都城方式」と呼ばれる仕組みで、全国各地から視察が相次いでいるという。

さらにカードの交付を希望する従業員が10人以上いる企業には、市職員が出向く。昨

年7月からは、市内の温泉施設でマイナンバーカードを掲示すればポイントが付き、ポイントがたまると入浴料を無料にするサービスも始めた。

宮崎県内の市町村の交付率は11・3%。串間市も15%と高く、全国4位にランクされている。

都城市は、電子化した母子手帳や保険証などのシステム導入を目指しており、これらを利用するにはマイナンバーカードが必要になるという。市総合政策課は「市民サービス向上や、行政の効率化を図るために、マイナンバーカードの重要性はますます高まる。市民に幅広く、取得を呼びかけたい」としている。

マイナンバー 戸籍に導入 結婚・年金、謄本提出不要 法務省諮問へ

毎日新聞 2017年8月2日

法務省は、税や社会保障などの行政手続きに活用される「マイナンバー制度」の利用範囲を戸籍に拡大する方針を固めた。9月中旬の法制審議会（法相の諮問機関）総会で戸籍法の改正について諮問する。結婚の届け出やパスポート申請、老齢年金請求などの際に行政機関に対して戸籍証明書（謄本や抄本など）の提出が不要になり、手続きが簡素化される。同省は、法制審での審議を経て、2019年の通常国会での戸籍法改正案の提出を目指している。

【鈴木一生】

※離婚後に子供の児童扶養手当を請求するケース（申請者の親と子供の戸籍が分かれている場合）
拡大した場合のイメージ
マイナンバー制度の利用範囲を戸籍事務に



農福連携、京都南部でも拡大 施設で栽培、販売も

京都新聞 2017年08月01日



栽培したニンジン収穫する「工房あんじゅ」の利用者や職員たち。野菜はレストランなどのメニューで提供される（井手町井手）

農業と障害者福祉の連携を深め、障害者の農業就労を推進する「農福連携」の取り組みが、京都府南部の山城地域でも広がりつつある。農業の現場で障害者を雇用する受け皿の問題などもあるが、福祉の新しいあり方として期待が寄せられている。

前菜のプチトマトやオクラを使ったジュレ、ピーズの冷製スープ、メイン料理に添えられたブロッコリーやニンジン。障害者が働く「工房あんじゅ」内のフランス料理店（井手町多賀）で、色鮮やかに皿を飾るのは、店を運営する社会福祉法人「京都ライフサポート協会」（京田辺市三山木）の利用者たちが育てた無農薬野菜だ。

障害者の雇用を増やし、地域の農業の担い手確保につなげるモデルケースとして府も注目している。府は本年度、生産や加工設備、製品開発など福祉事業所への補助金を充実させ、府庁内に「きょうと農福連携センター」を開設した。

同協会は井手町井手や木津川市内2カ所の休耕田を活用し、今後はイチゴなど新たに栽

培する品目をさらに増やす計画だ。同協会理事長の樋口幸雄さん（67）は「重度の障害がある利用者も根気よく作業している。地域で農業を進めていく新しい福祉のあり方だ」と話す。

社会福祉法人「同胞会」の「どうほうの家」（宇治市小倉町）は、昨年9月、同会理事が中心となり、府内の障害者施設としては初めて農事組合法人「コヘレト農園」を立ち上げ、生産団体として農業に取り組んでいる。理事の大森健三さん（64）は「農業に真正面から挑戦し、利用者に仕事をする誇りを持ってほしかった」と理由を語る。

現在、宇治田原町や城陽市などで利用者たちが有機農法で野菜作りをしている。収穫した野菜は、施設の給食や施設が運営するカフェ「Rigolotto」で提供するほか、直売所で販売している。

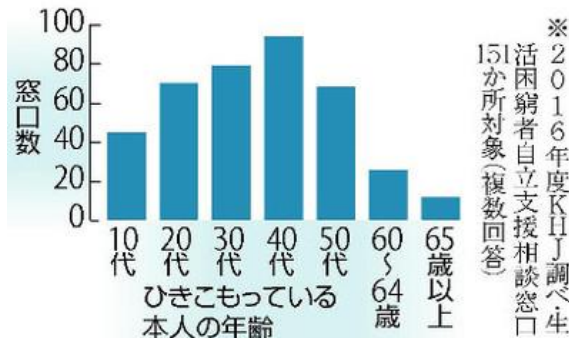
一方、一般の農業の現場では、障害者の雇用がまだ少ないのが現状だ。大森さんは「仕事をする上で障害のある人もパートナーだという感覚が根付いてほしい」と訴える。

障害者施設で栽培した野菜が流通する仕組みも整いつつある。香辛料メーカーの「甘利香辛食品」（京都市伏見区）が今年から、社会福祉法人「山城福祉会」が運営する「志津川福祉の園」（宇治市志津川）など府内6施設が栽培したトウガラシの買い付けを始めた。

同社購買部の深川直史課長（39）は「施設と企業の両方が利益を得る関係を築き、1、2年で終わらず、長く続けて連携できる仕組みが必要だ。その結果として社会貢献につなげたい」と話している。

中高年ひきこもり、高齢化進む…親の死後「餓死するまで閉じこもるのか」

読売新聞 2017年8月1日



40歳代のひきこもり相談を受けた相談窓口が最多

ひきこもりの高齢化が進んでいる。現在の対策は、若者への就労支援が中心で、中高年への支援は十分とはいえない。親世代は年老いて、「親亡き後」をどう生きていくかが切実な問題となっている。

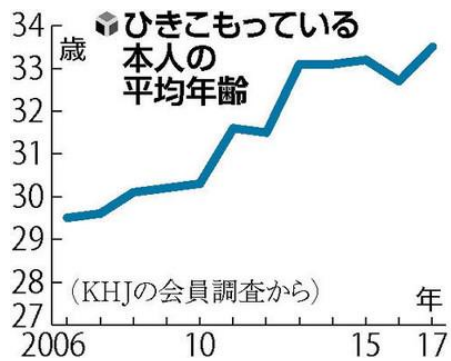
「できれば家で息子の面倒を見ながら、自立を促したい。でも、自分も年だし、これからどうしたらいいのか」。都内に住む無職男性（73）は、ため息をつく。

妻と、まもなく40歳になる長男の3人暮らし。長男は高校卒業後、職を転々とし、25歳頃からひきこもるようになった。食事以外で自室から出てくることはほとんどない。暴力をふるうことはなく、居間にいれば家族と会話もするが、就職やひきこもりの話題になると、自室に戻ってしまう。

男性は年金暮らしで、貯蓄もそれほど多くはない。結婚して家を出た長女からは最近、「お兄ちゃんは今からどうやって生活していくの?」と聞かれる。長女は男性に、長男に一人暮らしをさせるよう求めるが、男性は踏み切れない。「一人にしたら餓死するまで閉じこもってしまうのではと心配で……」

40歳以上の実態、把握されず

ひきこもりは、国の定義では、社会参加せず6か月以上家庭にとどまっている状態を指す。内閣府が15～39歳を対象に行った調査では、全国に約54万人いると推計されるが、40歳以上の実態は把握されていない。



「KHJ 全国ひきこもり家族会連合会」（東京）の事務局長の上田理香さんは「ひきこもりはかつて、青少年の問題とされていた。だが、支援を受けられないまま長期化したり、大人になって就職の失敗や失業をきっかけにひきこもったりする中高年世代も増えている」と指摘する。KHJ が 2016 年 11 月～17 年 1 月、会員に行った調査では、ひきこもる人の平均年齢は 33.5 歳で、40 歳以上が 25% だった。山梨県が 15 年、県内の民生委員を通じて行った実態調査では、40 歳代以上が 6 割を占め、島根県の調査でも 5 割にのぼるなど、高齢化がうかがわれる。

だが、ひきこもりへの支援は主に若者を想定しており、就労支援は、対象が 30 歳代までのことも多い。都道府県や政令指定都市が設ける「ひきこもり地域支援センター」は全国に 70 か所あるが、「おおむね 40 歳まで」などと年齢を区切るところもある。

10 歳代後半からひきこもっている横浜市の女性（40）は昨年、40 歳を目前に、就労支援や居場所づくりに取り組む NPO へ相談に訪れた。だが、対象は 39 歳までと言われ、そのまま行かなくなった。働いた経験はなく、生活は父親の年金頼みだ。「生きていくすべを何とか探さなければと思うけれど……」とうつむく。

就労支援や家賃援助、制度はあるが…

そうした中、中高年ひきこもり支援の役割を期待されるのが、様々な原因で困窮している人に対する生活困窮者自立支援制度だ。就労に向けた支援や家賃の援助などを行う。

同制度の相談窓口約 150 か所を対象として KHJ が 16 年度に行った調査では、6 割超が、40 歳代のひきこもりに関する相談を受けたことがあると回答。支援の受け皿となっていることがわかる。ただ、同制度では、半年から 1 年をめどに就労に向けた支援を行うことになっており、設置する自治体からは「ひきこもりの場合、そう性急に進められるものではない」との声も上がっている。

神奈川県横須賀市は、社会福祉法人や農家などでの就労体験に取り組む。1 日 500 円ほどの謝礼をもらって簡単な仕事をしながら、働くことに慣れていく。これを続け、正式な雇用につながった事例もあるという。また、年金や福祉制度の説明など、生活に必要な知識を記した「生活マニュアルハンドブック」を作るなど、就労以外の支援をする団体もある。

ひきこもり支援に詳しい「市民福祉団体全国協議会」相談員の阿部達明さんは、「親亡き後には、経済的な問題はもちろん、役所での手続きや公共料金の支払いなど、生活に必要なことすべてを自力でやる必要がある。就労支援だけではなく、長期的な視点で社会との橋渡しの役割を担うサポーターが必要だ」と話す。（小沼聖実）

中高年世代のひきこもりの主な相談先

KHJ 全国ひきこもり家族会連合会	http://www.khj-h.com/
ひきこもり地域支援センター	厚生労働省の HP (http://www.mhlw.go.jp/) から「生活保護・福祉一般」→「ひきこもり対策推進事業」のページ参照
生活困窮者自立支援制度	各自治体が設ける相談窓口

ダウン症のお兄ちゃん、妹が描いたら...? クスっと笑える家族の日常をイラストにした深い理由 執筆者： 笹川かおり HuffPost Japan 2017 年 08 月 01 日

「ダウン症の家族との生活ってどういうもの？」

そんな疑問に答えてくれるイラストエッセイが出版された。ダウン症の兄、ヒロさんの日常を妹の佐藤美紗代さんが描いた『ヒロのちつじょ』（太郎次郎社エディタス）だ。

ちょっと日常をのぞいてみよう。

「おはよ」

「おはよ、おはよ」というあいさつは、返事がきちんと帰ってくるまでつづく。

「気前のよさは人一倍」

(『ヒロのちっじょ』 P12 より)



(『ヒロのちっじょ』 P27 より)



ヒロさんは、どんなものでも「それ、ひと口ちようだい？」と聞くと、「いいよ」と分けてくれるという。たとえ大好きなコーヒーやハンバーグでも。

あ・うんの呼吸

(『ヒロのちっじょ』 P72 より)



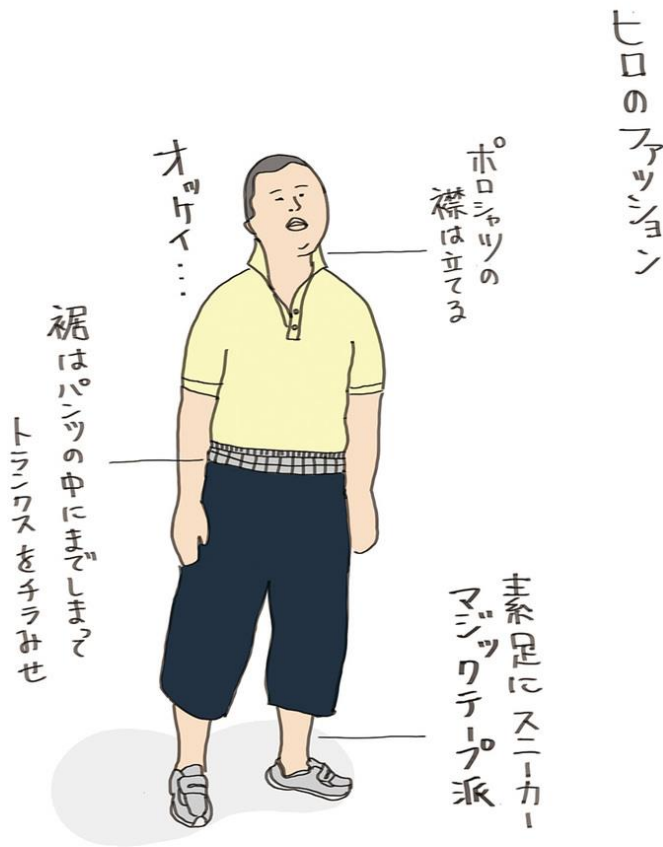
スーパーで買い物かごを持ったヒロさんは、前をいく母が食材を手にとったとたん、すかさずカゴをさしだす。30年以上のつきあいの母とヒロさんだからこそできること。

.....

本作は、佐藤美紗代さんが大学の卒業制作で描いた作品で、ヒロこと兄の佐藤洗慧（ひろえ）さんの行動が、「あさ」「ひる」「よる」の章ごとにイラストと文章で紹介されている。他にも、ヒロさんがソファでゆらゆらとくつろぐのが好きな様子や、乾いた洗濯物をパサッと

伸ばすのが好きなことなどが描かれる。毎日、食後に一杯の水を「いいよ？」と言って、飲んでいいか確認する。そんなヒロさんの日常は、本人のちょっとしたこだわりで満ちていて、こちら思わずクスッと笑ってしまう。

一回で間違えずに服を持ってくるときもあれば、何回も間違えることもある。30年以上、365日くり返してきた「着替え」



(『ヒロのちつじょ』P72より)

「津久井やまゆり園」の事件から1年。障害のある家族とともに暮らすとはどういうことなのか。障害者とともに暮らす家族はどんなことを感じているだろうか。現在カナダでソーシャルワーカーの勉強をしている佐藤さんに、メールで聞いてみた。そこには、お互いの価値観を尊重し、「距離をつめない愛」を模索する家族の姿があった。

——ヒロさんの本を描いた理由は？

「ダウン症の家族との生活ってどういうもの？」という質問がこの本を書き始めたきっかけなので、この本を通してダウン症とはどういうものなのか知ってもらいたいというのが第一です。障害をもった人

と接した機会のない人はどう接したら良いかわからないという声をよく聞きます。ヒロに限らず発達障害を持った人はこだわりが強かったり、少し変わった癖をもっていたりと、初めはとっつきにくいかもしれませんが、見ていて飽きないくらいとてもユニークな人が多いです。その一人として兄がいます。彼のもつユニークさ、独特な愛らしさを伝えられたらと思います。

「障害をもった家族の本」と聞くと暗く思われがちですが、この本はコミカルに描きました。

——障害のあるヒロさんと暮らす日々を通じて、佐藤さんが気づいたことは？

兄のこだわる部分はどこもこだわり、気にしない部分はあるがまますを受け入れる身のこなし方を見て、「兄が兄であるように私は私のままで良いんだ」と自分を受け入れられたきっかけになりました。

こだわりや癖は障害のあるなしに限らず誰にでもあり、それは自分自身の個性の一部です。他人や自分のこだわりを大切にしてもらいたいという気持ちを込めました。

——ヒロさんとは長年一緒に暮らしてこられたと思いますが、実際に絵に描いてみて、何か新しい発見はありましたか？

たくさんありました。またつい最近もいくつか発見したのがあり、見ているようで気づけなかったのだと改めて感じました。

以下箇条書きですが、

・体を前後や左右にゆらしているとき、前後にゆれている時は左右のゆれよりも嬉しい時。さらにこれはハッピー度のバロメーターでもあり、ハッピー度が高ければ高いほど、ゆれも大きい。

・ゆらゆらいつもゆれているせいか、お腹はメタボなのに、ふくらはぎの筋肉はけっこうしっかりしている。

・本の中のヒロのイラストを見せた時、「さとうひろえ」と自分の名前を繰り返しており、アイデンティティーが思っていた以上にしっかりある。

・お風呂が大好きで、短いお風呂の歌（フレーズ？）を自分で作り歌うくらい好き。

・靴下が嫌いですがすぐ脱ぎたがる。

・毛布のようなフワフワした生地が肌に直接触れるのは好きではない。

・ズボンの前後は間違えないのに、下着の前後はよく間違えている。

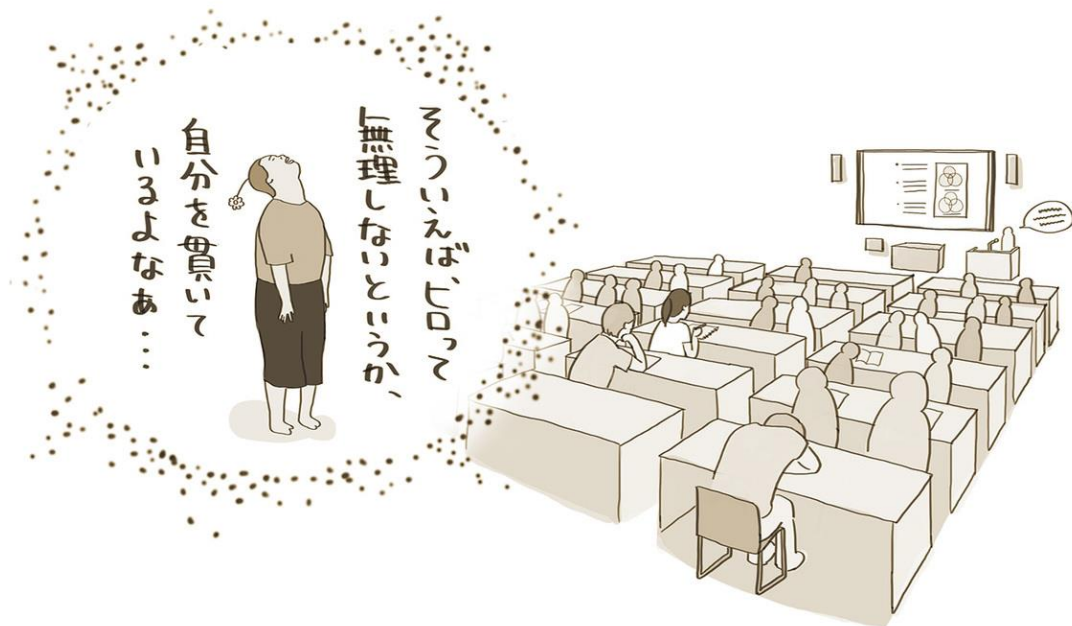
・家事の手伝いなど想像していたよりも色々なことができる。

——新たに気づいたことがたくさんあると伝わってきます。本の帯にもあった家族の“距離をつめない愛”とは、どういうものだと思いますか？

家族だからといって全てを分かりあえるわけではなく、良かれと欲していたことが裏目に出てしまうことがあるように、ヒロと私の距離感もそうだと思います。

ヒロにとっての幸せとは何だろうと考えたとき、私の価値観を押し付けてはヒロの幸せには繋がらないと思うのです。

（『ヒロのちっじょ』P63より）



——具体的にはどんなことがありますか？

例えば、日常のなかでのこと、朝私と母が朝食の準備や、学園や仕事に行く身支度をバタバタとしているとき、ヒロは我関せずマイペースで全く急ぐ気配はありません。

それはヒロにとって急ぐ理由がないからであって、ヒロの立場から見ればなぜ私たちはそんなにも忙しくしているのだらうと思っているかもしれません。私自身ヒロのそんな様子を見ていて、急いでいる自分がばからしく感じるがあります。

他の例でいうとヒロは、時折いきなり笑い出したり、機嫌が悪くなったりします。その

理由が私にはわからないことが多いのですが、こんなふうにはわからないことだらけの中で母や私のようなサポートする側が自分たちの価値観、決まり、感覚を押し付けてはヒロも私たちも疲れてしまいます。ヒロはヒロで私のことを妹として見ており、妹にああだこうだ言われたくないという兄としてのプライドもあると思うのです。

——それぞれの価値観を尊重しながら、ともに暮らしていく。

私が思春期の時つらく当たってしまったことについて、寛容な兄が怒ったことは一度もありません。しかし時々もしかしたらそのことをまだ許してくれてはないかと思うことがあります。私にとっても全て過去のことだと吹っ切れるわけではありません。

そういう過去のこと、兄妹ならではの距離感も含め、兄のもつ価値観や感覚の違いを認めているからこそ、なかなか距離をつかめないのだと思います。そういう中で、家族としてヒロにとっての幸せ、私たち家族内の心地良い距離感を模索しています。

社説:年金受給要件の緩和だけでは不信拭えぬ

日本経済新聞 2017年8月2日

国民年金などの受給要件を緩める改正年金機能強化法の施行で、およそ64万人が新たに年金をもらえるようになる。無年金者減らしに歩を進める制度変更だが、これだけで若者を中心に渦巻く年金への不信感を拭えるわけではない。

高齢層ほど少ない負担で高い給付を受ける年金の世代間格差を縮める改革こそが王道である。信頼が戻れば保険料の未納も減る。年金を政争の具にせず、政権与党と野党が共同で突っ込んだ改革案を建設的に練ってほしい。

改正法は最低25年の加入期間を10年に縮める内容だ。25年は主要国で突出して長かった。私たちは英米両国や税財源を年金原資に充てているカナダなどを参考に、日本に最低10年住めば受給権を得るのが望ましいと提案してきた。

過去には加入25年に満たない人が市役所の窓口で受給資格がないと知らされ、応じた市職員をナイフで刺す悲劇があった。払い損になる人を救うためにも受給要件の緩和は的を射ている。

半面、改正法が与野党全会派の賛成で成立したように、政治家による人気取り策のきらいがある。年金の持続性を高めるのに欠かせぬ厳しい改革についても、与野党は合意点を見いだすべきである。

例えば支給開始年齢の引き上げだ。厚生年金は男の場合、1961年4月2日生まれ以降が原則65歳になる。もっとも主要国の多くは67~68歳への引き上げ途上にある。少子高齢化と長寿化は日本の方が進んでいるのだから、より踏み込んだ荒療治が欠かせまい。

その際、ある程度の激変緩和はあるが若者がこれ以上、割を食わぬよう早く引き上げるのが筋だ。

何歳からもらうか、受給者の選択を広げるのも課題になる。前倒ししても先送りしても年金財政に中立な制度を設計したスウェーデンの例が参考になろう。

既受給者への給付水準を実質的に抑えるには、物価下落時などに名目年金額を前年より減らさない今の仕組みを見直す必要がある。

世代間だけでなく高齢世代内の格差を縮める工夫もいる。それには一定の収入や資産を持つ受給者への年金課税を強め、その分を基礎年金の財源に回すのが有効だ。

国民年金の保険料未納率は30%台半ばと高水準だ。免除者などを合わせた実質未納率は60%近い。より根本的には、年金財源としての消費税増税の可能性を探る税制との一体改革が切り札になろう。

